

事後評価調書(案)

I 事業概要																											
事業名	農業農村整備事業(たん水防除事業)																										
地区名	五明千秋地区																										
事業箇所	一宮市、江南市																										
事業のあらまし	<p>本地区は、愛知県北西部に位置し、東側を一級河川青木川、西側を準用河川千間堀川に挟まれた平坦な農村地域である。</p> <p>地区内流域 327ha の排水は、昭和 45 年度に県営かんがい排水事業千秋地区で整備された排水路により、一級河川青木川へ自然排水されている。</p> <p>しかし、流域内開発による降雨流出量の増加等による排水能力不足により、地区の排水状況は著しく悪化し、豪雨時にはしばしば農地や農業用施設、公共施設等に湛水被害が生じていた。</p> <p>このため、能力不足の排水路を整備することにより湛水被害を防止し、農業経営の安定と県民生活の安全・安心を図ることを目的として、平成 9 年度からたん水防除事業五明千秋地区を実施し、平成 24 年度に完了した。</p>																										
事業目標	<p>【達成(主要)目標】</p> <p>能力不足の排水路を更新整備し、農地、農業用施設及び公共施設等の湛水被害を防止する。(計画基準雨量 294mm/3 日、1/20 年確率雨量)</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>																										
事業費	事業費	内訳																									
	15.9 億円	■工事費 13.7 億円、■用補費 1.4 億円、■その他 0.8 億円																									
事業期間	採択年度	平成 9 年度	着工年度	平成 10 年度	完成年度	平成 24 年度																					
事業内容	排水路 L=3,741m																										
II 評価																											
①事業目標の達成状況	1) 主要目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>事業完了年度からの 5 年間で、最大 3 日連続雨量は平成 26 年 8 月 8 日～8 月 10 日に 191.5mm(最大 1 時間雨量 59.5mm)を観測したが、農地や公共施設等の湛水被害は発生していない。</p> <p>降雨実績 (一宮観測所降雨データ)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>計画</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大 3 日連続雨量</td> <td>294.0mm</td> <td>129.5mm</td> <td>158.0mm</td> <td>191.5mm</td> <td>155.0mm</td> <td>166.5mm</td> </tr> <tr> <td>(最大 1 時間雨量)</td> <td>(22.6mm)</td> <td>(38.0mm)</td> <td>(73.5mm)</td> <td>(59.5mm)</td> <td>(31.0mm)</td> <td>(49.5mm)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>最大 3 日連続雨量は計画基準雨量以下であるが、最大 1 時間雨量では計画以上の雨量に対して湛水被害は発生しておらず、本事業は地域の農業経営の安定と県民生活の安全・安心に寄与していると評価できる。</p>					区分	計画	H24	H25	H26	H27	H28	最大 3 日連続雨量	294.0mm	129.5mm	158.0mm	191.5mm	155.0mm	166.5mm	(最大 1 時間雨量)	(22.6mm)	(38.0mm)	(73.5mm)	(59.5mm)	(31.0mm)	(49.5mm)
	区分	計画	H24	H25	H26	H27	H28																				
最大 3 日連続雨量	294.0mm	129.5mm	158.0mm	191.5mm	155.0mm	166.5mm																					
(最大 1 時間雨量)	(22.6mm)	(38.0mm)	(73.5mm)	(59.5mm)	(31.0mm)	(49.5mm)																					
2) 副次目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>—</p> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>—</p>																										

② 事業効果の発現状況	【費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化】					
	項 目		事業採択時 (H9)	再評価時 (H18)	実績 (H29)	備考
	事業期間		H9～H14 (6年間)	H9～H22 (14年間)	H9～H24 (16年間)	
	事業費 (億円)	工事費	12.3	11.7	13.7	
		用地補償費	1.1	1.6	1.4	
		その他	1.8	0.9	0.8	
		合計	15.2	14.2	15.9	
	効果の算定 要因	流域面積	327ha	327ha	327ha	増減なし
		農地面積	163ha	163ha	161ha	減 2ha
		宅地等面積	164ha	164ha	166ha	増 2ha
<p>【事業期間に対する評価】 再評価時(H18)より事業期間を2年延長したが、既設の排水路を活かしながら下流から工事を進めたため、湛水等の被害は発生しておらず、期間延長による影響はなかった。</p> <p>【事業費に対する評価】 増額はあったものの、ほぼ計画どおりの事業費で完了できた。</p> <p>【効果の算定要因に対する評価】 再評価時(H18)と比較して、流域面積に増減はなく、農地面積は微減している。排水路の整備により湛水被害が防止されており、効果については、概ね計画通り発現していると評価できる。</p>						
③ 事業実施による環境の変化	<p>施工にあたり、低振動、低騒音の作業機械を使用するなど周辺環境に配慮したことから、自然環境や生活環境へのマイナス影響はほとんどない。</p>					
III 対応方針（案）						
今後の事後評価の必要性	主要目的が概ね計画どおり達成されているため、今後の事後評価は不要である。					
改善措置の必要性	主要目的が概ね計画どおり達成されているため、改善処置は不要である。					
同種事業に反映すべき事項	必要な年度予算を常に把握し、適正な進行管理を行う。また、やむを得ず予算の変動が生じた場合には、事前に関係機関や地元との調整を十分に行う。					
IV 事業評価監視委員会の意見						
V 対応方針						